【中空知支所：地域第二係】

# 「えみまる」採種栽培技術の向上

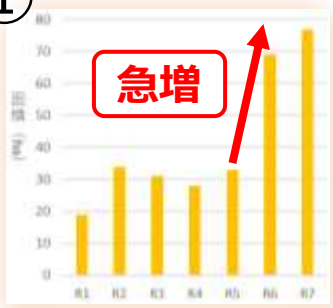
～早期異常出穂抑制技術の確立による種子の安定生産～

対象：江部乙町水稲採種組合（15戸）

## 1　活動の背景

**近年、直播用品種「えみまる」の種子の需要が増えている**

①




江部乙町水稲採種組合における「えみまる」採種面積の推移

②

7月上旬に**早期異常出穂**した穂(左下)と正常な穂(右上)

③

**早期異常出穂は育苗期間の高温が原因**

「えみまる」採種圃での育苗管理目標（令和７年指導参考事項『水稲「えみまる」の種子生産における早期異常出穂抑制技術』より抜粋）

④

**適正な移植時苗形質の確保を！**

育苗管理の方法から見直さないと！

## 2　活動の経過

### 早期異常出穂抑制技術の提案

・育苗作業が始まる前に、今年度「えみまる」を作付けする農業者10戸に対し、個別巡回を綿密に行い、育苗日数短縮を提案した。

・農業者それぞれの「浸種日」「は種日」「移植日」等の作業スケジュールを聞き取り、実践可能な方法を話し合った。

聞き取りに使用したカレンダー

現地巡回の様子

### 育苗日数短縮の実証

・概　要

☞ 育苗日数：試験区26日
　　慣行区28日

・ねらい

☞ 育苗期間高温に当てない

※育苗日数短縮だけでなく、遠隔地でも温度を確認できる温度計や遮光ネットを設置して、高温遭遇を回避

温度計

遮光ネット（遮光率40%。移植1週間前から使用）

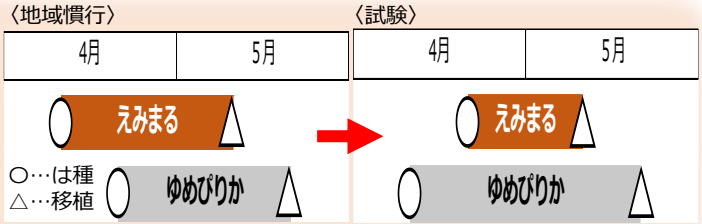
### 育苗作業体系の検討

・概　要

☞ 育苗作業体系（は種・移植の順序）の変更。

・ねらい

☞ 育苗期間の長期化を防ぐ




育苗作業体系変更イメージ

## 3　成果の具体的内容

（早期異常出穂抑制技術の導入　現況０戸→目標５戸→実績４戸）

### 早期異常出穂抑制技術の提案 ▶ 育苗日数短縮を**４戸で実践することに**

| 農業者 | 育苗日数 試験 | 育苗日数 慣行 | 提案に対する農業者の反応 | 農業者 | 提案に対する農業者の反応 |
|---|---|---|---|---|---|
| A | 26日 | 28日 | 去年くらいから、28日で問題なかった。田んぼ3反くらいならやってもいい。 | F（実践済） | ほ場や苗の状態が良ければ、結果的に25日くらいになっているかも。 |
| B | 22日 | 25日 | 一昨年、試しに22日で植えてみたが、根張り悪かった。後半に育苗を始めたものなら25日以下でできる。 | G | 25日育苗は確約できない。 |
| C | 32日 | 31日 | 毎年25日くらいで植えたいと思っていたから、やってみたい（育苗中のトラブルで短縮にはならず）。 | H（実践済） | 例年のように27日前後で植える。 |
| D | 29日 | 31日 | えみまるもゆめぴりかも30日くらいで考えていた。 | I | 27日前後で考えていた。25日育苗はごみ上げ等があるから難しい。 |
| E | | | 育苗箱何枚かくらいなら良いが、実規模での試験は難しい。 | J | 移植精度が落ちるかもしれないから厳しい。 |

個別巡回時聞き取り結果

### 育苗日数短縮の実証（３戸）

▶育苗日数短縮 ➡適正苗質確保！

農業者Aの試験区（左）、慣行区（右）の苗質

| 区分 | 早期異常出穂発生率（8/4 25株×2調べ） |
|---|---|
| 試験 | **0%** |
| 慣行 | 4% |

早期異常出穂発生調査結果

▶早期異常出穂は試験区で**未発生**、慣行区でわずかだった

### 育苗作業体系の検討（１戸）

▶は種・移植の順序の変更 ➡育苗日数短縮に（農業者の慣行は30日以上）

➡**十分な根鉢**で**移植作業問題なし！**

| 品種 | 浸種 | 催芽 | は種 | 移植 | 育苗日数 |
|---|---|---|---|---|---|
| えみまる | 4/6 | 4/16 | 4/19 | 5/18 | **29日** |
| ゆめぴりか | 4/5 | 4/15 | 4/17 | 5/20 | 33日 |

農業者Dのえみまるの根鉢の様子

田植えの様子

### 農業者の反応

**早期異常出穂は減収につながるため、「えみまる」種子生産には育苗日数の短縮と育苗期間の高温を抑えることが重要だと改めて理解できた。**
**来年は25日苗を目指して育苗したい！**

## 4　今後の課題と対応

○育苗作業体系の検討と併せて、水管理や温度管理等の基本技術の共有・確認が必要。
○成果を地域に波及させ、「えみまる」種子生産技術の向上を支援する。

【作成者　中空知支所　専門普及職員　渡辺 謙吾】